

青木ヶ原自殺対策事業【山梨県】

(実施主体) 山梨県

(基金事業メニュー) 強化モデル事業

(実施期間) 平成 23 年度～24 年度

(実績額) 平成 23 年度 11,062 千円

【事業の背景・必要性・目的】

本県の平成 23 年の自殺死亡率は、警察統計（発見地ベース）で 36.3 であり、平成 19 年から 5 年連続で全国 1 位となっている。一方、人口動態統計（住所地ベース）の自殺死亡率は 5 位である。警察統計の数値が高いのは、県外からの自殺者が殆どを占める青木ヶ原樹海を抱えることにより県内での自殺者のうち、県外者・不明者が 30.1%を占めていることが原因である。

本県での自殺者を減少させるためには、県民に対する自殺対策とともに、県外からの自殺者を減少させる対策が必要であり、特に、県外からの自殺者が多い青木ヶ原樹海での対策が重要である。

そこで、県外からの自殺者に対する水際対策として、①青木ヶ原樹海周辺の施設に監視員を配置して、自殺企図者の発見、声かけと保護を行う②富士北麓地域の関係機関及び関係団体が共同し、地域ぐるみで自殺対策を講じる体制づくりを行う③青木ヶ原樹海周辺地域において自殺企図者の発見や声かけ活動の輪を広げるため、新たなボランティアを養成するための講座を開催するなど三位一体の事業を行い、自殺者の減少を目指している。

【事業の内容】

- ① 西湖コウモリ穴管理事務所と駐車場、富岳風穴の売店と駐車場及び鳴沢氷穴の売店と駐車場において、青木ヶ原樹海を訪れる者を注意しながら見て、自殺企図の疑いがある者を発見した場合には、声かけを行う。声かけを行った結果、自殺企図者だと思われる場合には、一時的に保護するとともに、必要に応じて警察署に支援の協力を求める。
- ② のちをつなぐ青木ヶ原ネットワーク会議を設置し、関係機関及び関係団体の協力体制の構築、地域団体及び住民に対する普及啓発、その他自殺防止対策の推進に関することを協議する。
- ③ 青木ヶ原ふれあい声かけ事業を広く地域に広げ、事業の実効性を高めるとともに地域住民への自殺予防への理解を広めるためにボランティア養成講座を開催する。

【事業実施に当たっての運営体制等】

- ① 西湖コウモリ穴管理事務所及び駐車場での声かけを富士河口湖町に委託。
富岳風穴の売店及び駐車場、鳴沢氷穴の売店及び駐車場での声かけを富士観光興業(株)に委託。
それぞれの場所に常時 2 人配置（業務時間：開店時間～閉店時間後 30 分）
- ②③ 富士東部保健福祉事務所が実施。

【事業の成果、工夫をした点、その他特筆すべき点】

県内の自殺者は減少しており、一定の効果は出ているものと考えられる（平成 21 年：363 名→平成 22 年：359 名→平成 23 年：312 名 発見地ベース）

社会的な取り組みで自殺を防ぐ

①青木ヶ原ふれあい声かけ事業の平成23年の実績は次のとおりであった。

声かけ：58名（うち保護：28名）通報：39名（不審な様子であったが声をかけられず、警察に通報する場合も含む。）

対象者は、例年、4月、5月、7月、8月、11月、12月に多い。また、年齢層は、男性が20代と60代、女性が20代に多い。時間帯については、17時過ぎのバスで現地に下車した人への声かけが最も多かったため、夕方樹海に来る人に対しては、追尾し、声かけを行うべく心がけた。

バス会社の協力により、活動を熟知する専任の運転手1名をその路線に配置するなどし、乗客の中に自殺企図と思われる者が居た場合には、声かけ監視員にアイコンタクトで合図するなど、あうんの呼吸で適切な対応が行えた。

その一方で、声かけされた方から、自殺するつもりではなかった、ストーキングされているようで気分が悪い等のクレームが寄せられることもあったほか、活動内容についてマスコミに取り上げられることにより、目的に反して「自殺の名所」とであると広めてしまうことにつながる懸念があるなどの難しさがあった。

②いのちをつなぐ青木ヶ原ネットワーク会議全体会と部会（ボランティア部会、相談窓口広報部会）を開催した。構成員などの意見を踏まえ、既に作成していた「自殺企図者対応の手引き」の改訂を行った。改訂に際しては、精神保健福祉センターの助言を踏まえ、また声かけ監視員の経験を参考に、声かけフローチャートを追加するなどの工夫を加えた。

今年度新たに、ネットワーク会議において青木ヶ原樹海をフィールドに活動している「環境活動団体との交流会」を企画・開催し、青木ヶ原における自殺対策に関する普及啓発と意見交換を行った。団体からはイメージアップと自殺の水際対策の両立の難しさなど、多くの意見が寄せられた。

③3会場において地域住民を対象にいのちをつなぐボランティア養成講座を行った（参加者計84名）。「青木ヶ原樹海での自殺防止活動の実際」として、声かけ監視員を講師に迎え、声かけ活動の実際について講義を行った。また、実際の声かけの場面を想定したデモンストレーションも取り入れながら「うつ病と自殺をほのめかす人への対応」について講義を行い、活動のイメージづくりに工夫を凝らした。講義終了後、「声かけと自殺防止活動について」をテーマに、参加者の意見交換を行ったところ、過去の声かけ活動の体験談や「受講経験を活かして声かけをしてみたい」といった意見があげられた。

本講座については平成23年度で4年目となり、延べ573名の参加があったが、参加者数が年々伸び悩んでいる。またアンケートの結果、受講後であっても青木ヶ原周辺で声をかける機会は少ないことがわかった。地域住民への啓発についてはある程度達成されたと考えている。

（問合せ先）山梨県福祉保健部障害福祉課

TEL:055-223-1495

E-mail:shogai-fks@pref.yamanashi.lg.jp